

名古屋高裁判決報告集会における騒動及びこれに引き続く当ネットワークへの誹謗中傷について

2020年1月9日

愛知朝鮮高校無償化裁判をともに支援して下さる全国のみなさまへ

朝鮮高校にも差別なく無償化適用を求めるネットワーク愛知

○ はじめに

さる2019年10月3日、当ネットワークが主催して行った名古屋高裁判決後の報告集会において、当ネットワークが参加を断っているにもかかわらず、強引に報告集会会場へ立ち入ろうとした方がおり、警察官が出動する事態がありました。その方は、その後、当ネットワーク側から暴行を受けた旨を自身のFacebookにおいて発信し、私たちに対する誹謗中傷を繰り返しています。

このことにつき、愛知朝鮮高校無償化裁判をともに支援して下さる全国のみなさまから多数のお問い合わせをいただいていること、また、その方が行っている各種の誹謗中傷の内容及び態様が看過できない程度のものに至っていることに鑑み、当ネットワークの認識および見解を説明することにいたしました。

○ その方とネットワーク愛知との関係について

その方は、2015年ころに当ネットワークが開催した行事に一般的な支援者として参加し、愛知朝鮮高校無償化裁判の支援者を自称するようになりました。しかしながら、その後、その方には当ネットワークの設立・運動の趣旨に反する言動が散見されたため、その方の見解は、ネットワークの考えを代表するものではないことを会内で周知するとともに、当ネットワークが主催する各種行事への参加を積極的には求めないこととしました。

ただし、参加を求めないといっても、立場にかかわらず支援の輪が広がることには意義はあると考え、当ネットワークが主催する裁判報告集会や学習会、総会等の行事に一般の支援者として参加することについては制限していません。そのため、その方は、その後も当ネットワークの主催するこれらの行事への出席を続け、それら行事に対する批判と評し、Facebook上で当ネットワーク及び山本かほり事務局長に対する誹謗中傷を繰り返してきました。

当ネットワークとしては、当該誹謗中傷について極めて問題であると認識していましたが、朝鮮高校生及び裁判への支援を第一義と考え、それ以上の対応はとらないでいました。

そうしたところ、その方は、2019年4月の第2回高裁口頭弁論後の報告集会に参加したうえで、Facebookに朝鮮高校生が報告集会における歌や発言を「やらされている」、「歌も死んだ感じ」「目が死んでいる」「高校生にもなって親が作ったチラシを受け取るだけ」、当ネットワークや朝鮮高校が朝鮮高校生を「弾圧し」ている等と投稿し、朝鮮高校生と当ネットワークを誹謗中傷しました。そのほか、当ネットワークが支援者の皆様に対して配布した支援を求めるピラの内容についても、支援者個人の発言を封じるものである等の誹謗を行っていたことも確認できました。

当ネットワークとしては、これら投稿にあるように、その方があたかも当ネットワークを朝鮮学校に対する差別・人権侵害の主体者であるかのように誹謗していること、それ以上に、その方の攻撃の対象が朝鮮高校生や支援者の皆様にまで至っており、当ネットワークが行っている行事に関連させて誹謗中傷を行っていることは、もはや看過できるものではないと判断しました。そこで、事務局において対応を検討し、今後は、当ネットワークが主催する各種行事への参加をお断りすることを申し合わせました。

○ 高裁判決報告集会に至る経緯

以上のような経緯で、2019年10月3日の高裁判決と報告集会を迎えることになったわけですが、これに先立ち、その方は、当ネットワークがFacebook上で行った裁判傍聴の呼びかけを引用し、当ネットワークは「山本かほり支援団」であり、その方を「国籍の垣根もなく仲良く朝鮮学校の校長先生と談笑した罪」で排除している等との誹謗を加えたうえで、「だけど行くわよ～支援するわよ～」との投稿を行いました。

当該投稿は、言うまでもなく事実と反するものです。加えて、先に述べたように、その方が朝鮮高校生すら攻撃の対象に加えていることに鑑みると、高裁判決については不当判決となることも十分に予想でき、その方の報告集会への参加を認めれば、これまで以上に不当な誹謗中傷がなされる可能性が予想されました。

そこで、当ネットワークにおいては、前記申し合わせの確認に加えて、事務局において改めて対応を慎重に協議しました。また、弁護団にも見解を求め、その方の集会への参加の制限については、当ネットワークの団体としての性質及びこれまでの経緯をも踏まえれば問題はない旨の助言を受けています。これを踏まえて、少なくとも当ネットワークが主催する報告集会への参加は制限することを決定しました。

そして、これを受け、共同代表の原科浩から、「過去に裁判の報告集会に関して、朝鮮高校生を誹謗する投稿をされていたことは許し難く、当ネットワークとしては看過することはできません。支援と称して、朝鮮高校生、朝鮮学校関係者が多数つどう裁判の場や、当ネットワーク主催の報告集会に足を運ばれることを、固くお断りいたします。」とのメールを送付しました。

○ 報告集会当日の状況について

そうしたところ、その方は、これを受けてFacebookに「ネットワーク愛知に公開謝罪をもとめる」と宣言する投稿を行ったうえで傍聴に来て、裁判所前で当ネットワークに対して種々の抗議を行いました。これに対しては、当ネットワークから、集会への参加は固くお断りする旨のみ改めて伝えました。

ところが、その方は、これにもかかわらず、集会の場にも来て、執拗に集会に参加させるよう求めるとともに、その場で、参加は認められない旨の説明を行っていた弁護団の弁護士2名の隙について、無理に会場内に駆け込もうとしました。

そこで、やむを得ず、これをとどめて会場から連れ出すに至りました。その後、弁護士が警察を呼び、警察官の確認を経て、その方は集会会場を退去しました。

その後、その方は、10月3日当日の夜から、自身が会場において暴行を受けたとするなど、当ネットワークや朝鮮高校、朝鮮総聯、さらには朝鮮民主主義人民共和国を誹謗する投稿を繰り返しています。また、当ネットワークとは関係のない方の名前を出し、あたかもその方がネットワークに対して何らかの意見・見解を表明したかのような投稿もあり、その方たちからも当ネットワークに対して困惑の問い合わせをいただきました。

あらためまして、その方の投稿のうち、当ネットワークに関連することについては、いずれも事実と反するもの、または事実の曲解です。また、当ネットワークとは関係のない方への言及についても、先に述べたように事実と異なるものです。

関係者各位には、以上のことについて、ご理解をいただきたく、お願いいたします。

○ 最後に

朝鮮高校への無償化適用排除は、国が行った明確な差別・人権侵害行為です。そして、その背景には、愛知朝鮮高校無償化裁判において明らかになったように様々な歴史的経緯があります。

名古屋地裁及び名古屋高裁の2件の不当判決、並びに全国で次々に出されている不当判決の存在は、現在の日本におけるかかる差別・人権侵害を正すことがいかに困難であるかという現実を私たちに対して厳しく突き付けています。

そのために私たちは何ができるのか、何をすべきであるのかについては、当ネットワークとしても日々悩みながら運動を進めています。様々なご意見はあるところかと存じますが、皆様におかれては、朝鮮高校にも差別なく無償化適用を実現するため、ともに力をお貸しいただきたく、お願いいたします。

以上